

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	○身体拘束をしないケアの実践 現在ベッド使用している利用者1名が上下頭の位置が入れ替わったり、柵を外す行為がみられている。ご家族同意のもと四方ベッド柵を実施しているが拘束廃止の検討が必要である。	○身体拘束の廃止をしその人らしく生活できるようにする。	○利用者様の身体的・肉体的な弊害を再度職員間で外部研修を基に研鑽し共有する。 ↓ 一日の状態把握をし4本柵から2本柵へ変更。床にマットを敷いて転落予防をする。 (11/24より実施) 問題行動なく、熟睡している旨報告あり。観察し問題ある場合、布団敷きも検討する。ご家族にも報告する。今後も拘束廃止に向けた介護に取り組んでいく。	6 か月
2	43	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人一人の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排せつや自立に向けた支援を行っている。 その記録に関して一覧表に回数のみで記載、個人ケースにも転記するという、無駄な作業をしている。	○利用者様に関わる時間を増やすことができる。	○個人の一覧表の作成(時間ごとで記載できるようにし、把握、確認する) ↓ (11/1)より作成したケアチェック表を活用(排泄・食事・バイタル・リハビリ・入浴・巡回・体交等) 大幅な時間短縮となっている。 利用者へ関わる時間が増え、要望を伺いながら個別ケアの重視をする。	6 か月
3					か月
4					か月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。